

**支え合いをひろげる地域づくりフォーラム
「これから求められる住民主体の支え合いについて」**



平成29年2月18日
公益財団法人さわやか福祉財団
インストラクター 長井 卷子

本日お伝えすること

- みんなで創ろう 助け合い社会
- 代表的な助け合い活動
 - 地縁活動
 - ふれあいの居場所

みんなで創ろう 助け合い社会

社会の枠組みが大きく変化

人口減少・少子高齢化

働き手（生産年齢人口）の減少

認知症者の増加

核家族化・孤立化

非正規雇用者・無年金者の増加

尊厳の保持・生活の質重視

2025年をめどに地域包括ケアシステムの構築を目指す
「互助＝助け合い」の強化をいかに行うか

「地域包括ケアシステム」と「自助・互助・共助・公助」

- 地域包括ケアシステムの構築に当たっては、「介護・リハビリ」「医療・看護」「保健・福祉」といった専門的サービスの前提として、「住まい」と「介護予防・生活支援」といった分野が重要である。
- 自助・互助・共助・公助をつなぎあわせる(体系化・組織化する)役割が必要。
- とりわけ、都市部では、意識的に「互助」の強化を行わなければ、強い「互助」を期待できない。



自助：・自分のことを自分でする
・自らの健康管理（セルフケア）
・市場サービスの自費購入

互助：・住民同士の助け合い
・費用負担が制度的に保障されていないボランティアなどの支援、地域住民の取組

共助：・介護保険・医療保険制度による給付

公助：・介護保険・医療保険の公費（税金）部分
・自治体等が提供するサービス

地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」

- 専門職によるサービス提供体制の見直し
利用者のための専門職 + 地域のための専門職を！
- 自助・互助の持つ潜在力の再評価
知識・経験・技術・活動 「地域の大きな財産」
- 地域活動に参加するような仕掛け

生活支援・介護予防の体制整備におけるコーディネーター・協議体の役割

生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組

(1) 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置 ⇒多様な主体による多様な取組のコーディネート機能を担い、一体的な活動を推進。コーディネート機能は、以下のA～Cの機能があるが、当面AとBの機能を中心に充実。

(A) 資源開発	(B) ネットワーク構築	(C) ニーズと取組のマッチング
<ul style="list-style-type: none">○ 地域に不足するサービスの創出○ サービスの担い手の養成○ 元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保 など	<ul style="list-style-type: none">○ 関係者間の情報共有○ サービス提供主体間の連携の体制づくりなど	<ul style="list-style-type: none">○ 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチングなど

エリアとしては、第1層の市町村区域、第2層の中学校区域があり、平成26年度は第1層、平成29年度までの間に第2層の充実を目指す。

① 第1層 市町村区域で、主に資源開発（不足するサービスや担い手の創出・養成、活動する場の確保）中心

② 第2層 中学校区域で、第1層の機能の下で具体的な活動を展開

※ コーディネート機能には、第3層として、個々の生活支援・介護予防サービスの事業主体で、利用者と提供者をマッチングする機能があるが、これは本事業の対象外



(2) 協議体の設置 ⇒多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進

生活支援・介護予防サービスの多様な関係主体の参画例

NPO

民間企業

協同組合

ボランティア

社会福祉法人

等

※ コーディネーターの職種や配置場所については、一律には限定せず、地域の実情に応じて多様な主体が活用できる仕組みとする予定であるが、市町村や地域包括支援センターと連携しながら活動することが重要

(厚生労働省資料より)

コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ

- コーディネーターとして適切な者を選出するには、「特定の団体における特定の役職の者」のような充て職による任用ではなく、例えば、先に協議体を設置し、サービス創出に係る議論を行う中で、コーディネーターにふさわしい者を協議体から選出するような方法で人物像を見極めたうえで選出することが望ましい。
- 協議体は必ずしも当初から全ての構成メンバーを揃える必要はなく、まずは最低限必要なメンバーで協議体を立ち上げ、徐々にメンバーを増やす方法も有効。
- 住民主体の活動を広める観点から、特に第2層の協議体には、地区社協、町内会、地域協議会等地域で活動する地縁組織や意欲ある住民が構成メンバーとして加わることが望ましい。
- 第3層のコーディネーターはサービス提供主体に置かれ、利用者と提供者のマッチング(利用者へのサービス提供内容の調整)を行うが、その提供主体の活動圏域によっては、第2層の圏域を複数にまたがって活動が行われたり、時には第1層の圏域を超えた活動が行われたりすることも想定される(体制整備事業対象外)



新地域支援

助け合い活動創出ブック

改訂版

足りない助け合い活動の創出と
ネットワークづくり



助け合い活動のマトリックス

内容	形態	ご近所	地縁組織	居場所	地域通貨	有償ボランティア	非営利団体	営利団体の社会貢献活動
見守り		○	○	△	△	△	○	○
交流		○	○	○	○	○	○	×
ちょボラ		○	○	○	○	○	○	△
家事援助		△	△	×	○	○	○	×
食事	会食	×	○	○	×	○	○	×
	配食	×	×	×	○	○	○	△
移動		×	△	×	○	○	○	×

- 本図において○を付した活動が、市区町村のほぼ全域において継続的に行われていれば、その市区町村は目指すべき地域像をおおむね実現したと評価できる。このマトリックスを参考にして、担当する地域の実情を把握し、足りない活動の創出などに役立ててほしい
- なお、図に示した○、△、×は平均的な形態について評価したもので、例えば居場所から家事援助や配食、移動の活動が生まれる例も少なくない

地縁活動

従来型： 町内会、自治会、老人会等
新 型： 地域協議会等 名称は多様



1. 助け合い活動からみた地縁組織の特徴

(1) 近くで生活している人の互助組織

手軽に助け合える

- 手軽に助け合うことへのニーズは大
- 顔を合わせやすく、絆を結びやすい

このメリットを広げるため、近くに集会所を設けたり、気軽に集まれる工夫をし（カフェ、食堂など）、有志の活動を主催し（趣味、体操の会や、謝礼付きの清掃活動など）、また、誰もが関心を持つ活動（自治会主催の葬儀など）を行っている

ただ…

地域住民の全員の合意が難しい

- そのため、**有志による新型地縁組織**が生まれている

2. 地縁組織（町内会・自治会、新型組織）

住民の参加が活発になるよう、地縁組織のリーダーは、住民が心惹かれるものを企画・実行する。

【地縁組織の活動事例】

- ①健康増進・維持のためのラジオ体操など
 - － 体操後の語らいも有効
 - ②子どもを守り育てるための活動
 - － 通学路の安全見守り、挨拶運動など
 - ③集会所における魅力的な活動
 - － 時にお酒も
 - ④地域課題抽出のためのワークショップ
 - － 住みやすくするための話し合い
 - ⑤防災・防犯
 - － 身体の不自由な人の救い出し方協議
 - ⑥イベント
 - － 盆踊り、サンタクロース
 - ⑦趣味
 - － 街づくり探訪、文化系・体育系各種
 - ⑧学習
 - － 町内職業人・有名人等の講演
 - ⑨事業
 - － 農園、カフェ など
-
- 地縁団体の活動の情報を住民に情報公開することが有効



3. 経営者団体及び企業

【社会参加促進の指針の例】

- [日本経済団体連合会](#)
 - [日本労働組合総連合会](#)
 - [経済同友会](#)
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う
 - 社会参加を保障することを軸とする活動はすなわち、人と人との絆をつなぐものである。労働運動はその絆を再生する使命を持っている
 - 21世紀を迎え、企業経営をとりまく環境が大きく変化する今日、「企業の社会的責任」の重要性を「CSR（Corporate Social Responsibility）」という言葉であらためて提起し、その実践を推進している

特徴のある参考事例（企業の活動）

- ヤマトホールディングス
【特徴】全国各地で「買い物支援」「高齢者の見守り支援」「防犯・防災支援」などを実施。総案件数630件、自治体との協定締結数138件
- 日本IBM
【特徴】社員や定年退職者の地域コミュニティにおけるボランティア活動を支援。世界中のIBM社員ボランティアにオンラインで資料やノウハウを提供
- 西武信用金庫
【特徴】約10万人の年金受給者の見守り活動



3. 男性企業OBの参加促進

男性企業OBを助け合い活動に入れる方策をすすめる

○ 男性が得意とする分野の活動に誘い入れる

【男性が得意とする分野の例】

防災防犯、移動サービス、市民後見人、教育・観光ボランティア、事務・IT系の指導ボランティア、寄付募集活動、行政との交渉、広報紙の作成

- 青パト隊（大阪府枚方市）など、見栄えのよい活動を好む男性が少なくない
- 男性が得意とする分野を個別面接で調査している例もある（栃木県小山市大谷地区NPO「協力カード」で調査）

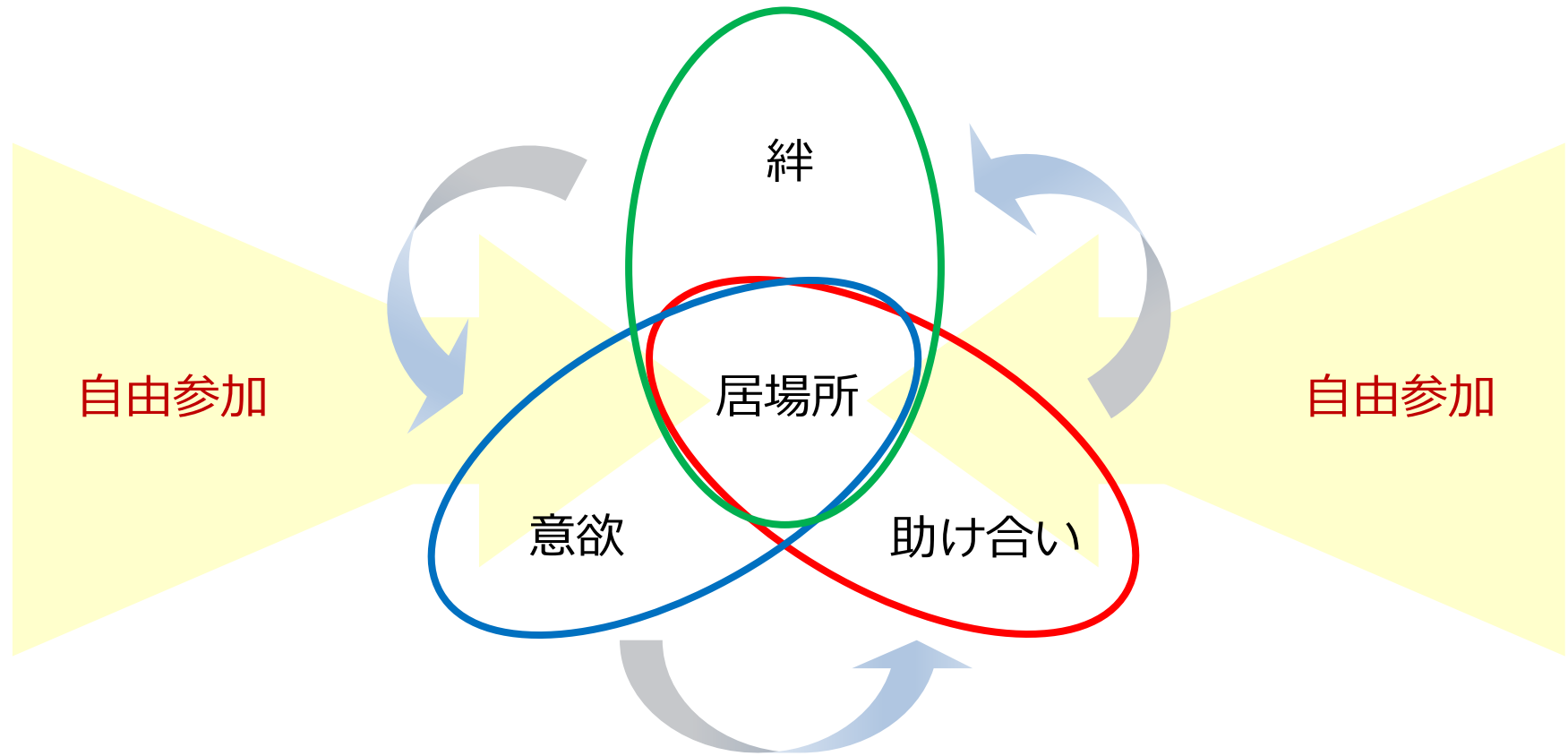
○ 友人、妻など親しい仲間から誘い込む



居場所

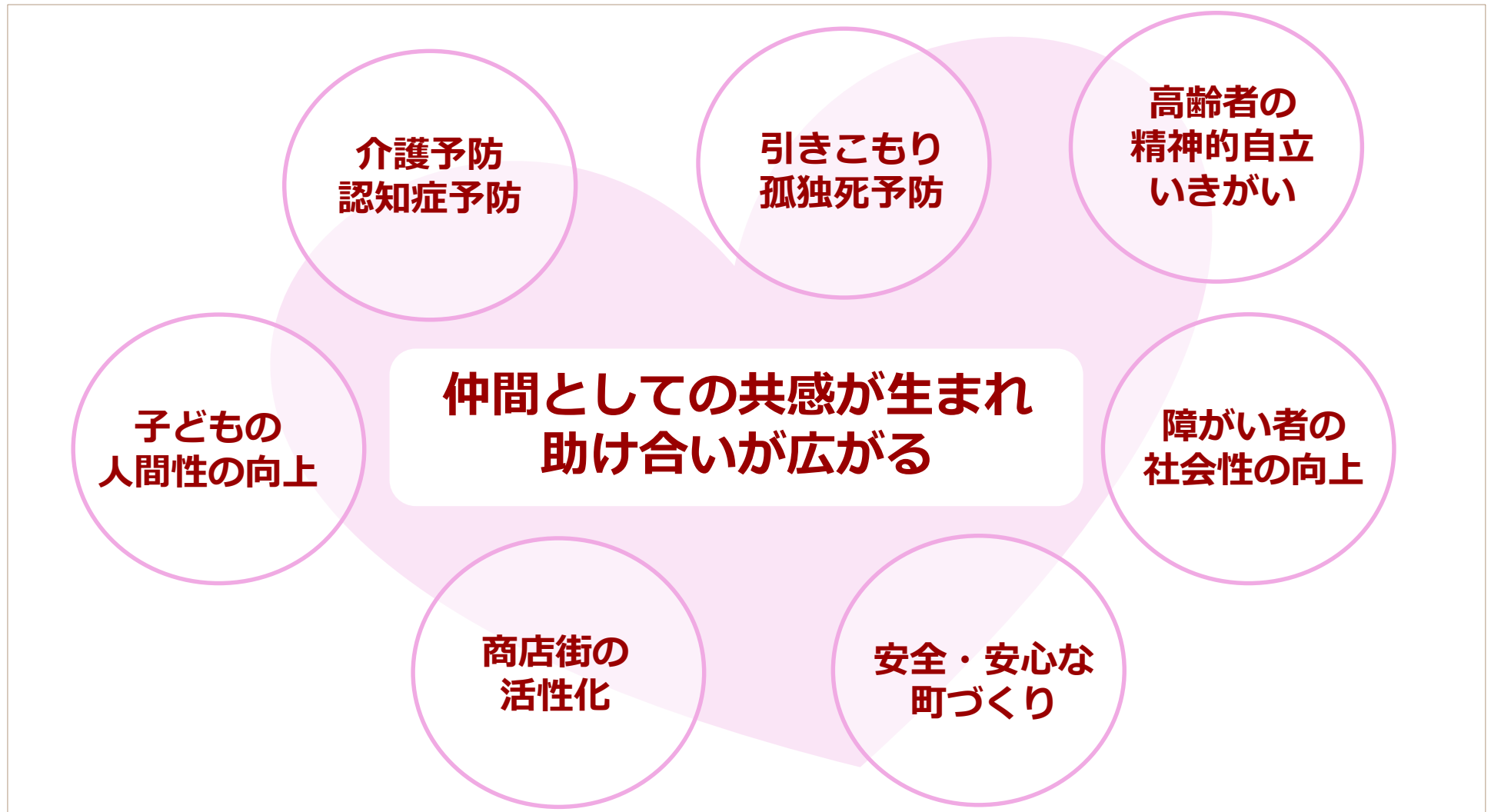
助け合いの原動力となる共感を生み出すところ

ふれあいの居場所 助け合いの基礎となる絆を生み出す



居場所は地域に住む多世代の人々が**自由に参加する場所**。そこにおける**主体的**な人との交わりによって**生きる意欲**が高まり、**それぞれの間の絆（共感）が生まれる**とともに、それが様々な**助け合いに発展**する。また、来られなくなった人を訪ねる訪問型居場所になることもある

ふれあいの居場所の効果



「居場所」における多世代交流の事例

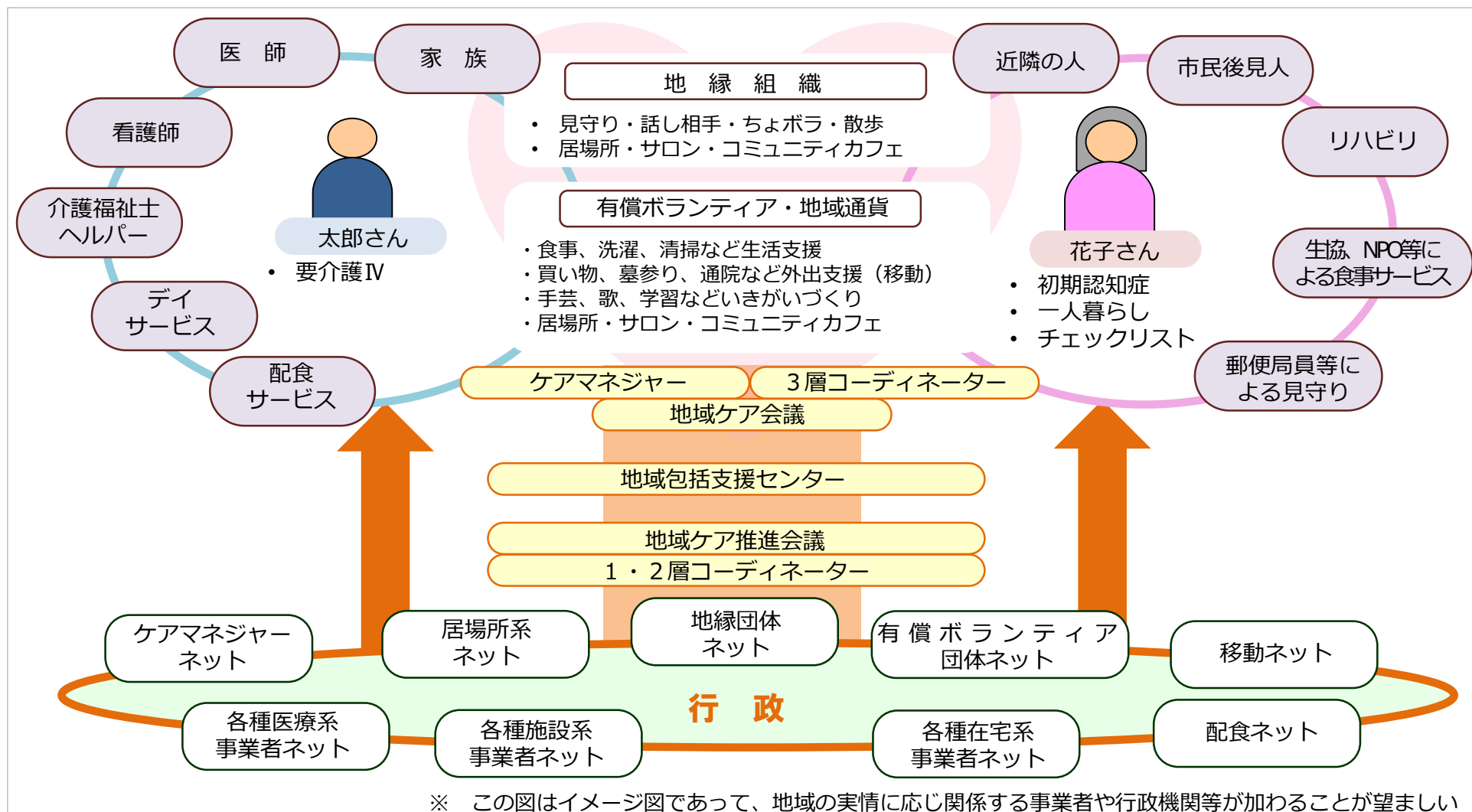


さわやか徳島 幸せの家ありがとう

ネットワークづくり

必要とする人に、必要な助け合い・サービスが包括して届くようにするため

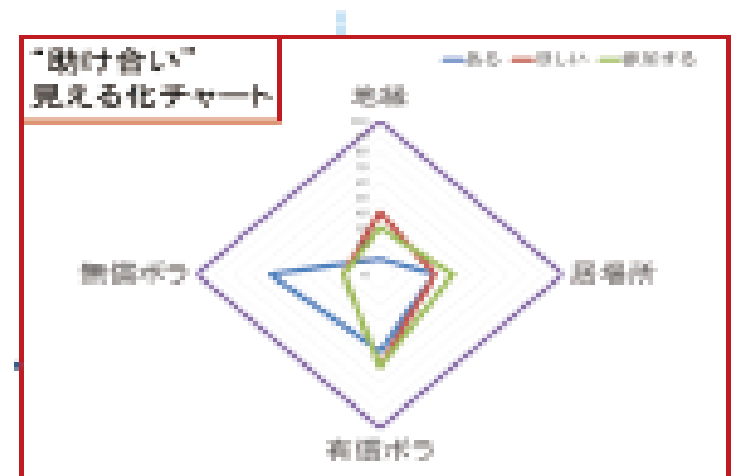
ネットワークのイメージ図



※ この図はイメージ図であって、地域の実情に応じ関係する事業者や行政機関等が加わることが望ましい

自分たちの地域の現状と将来について

1. 地域を知ろう・呼びかけよう
2. 目指す地域像を考える
3. 地域の現状把握
4. 不足するサービス
5. あったらしいなサービス
6. 担い手



住民のワークショップが有効

地域にはたくさんの力が！

理解し合うこと・つながることを
後押しする人や場があれば
ちょっとした支え合いが。



自分たちの町は自分たちで創りましょう！！

できることから始めてみませんか？

